

はしもと  
橋本ひろあき  
博明

## 水道事業の今後

新型コロナウイルス感染症が再び拡大しています。

町内での感染拡大阻止は何よりも気になるところですが、私としては役場の仕事が予定通り進まなくなる事も気になるところであり、その一つに水道事業の統合問題があります。

水道事業の統合については、本年夏には最終決定をする必要があります、そのためにも町民との意見交換会は1月中にも開催したいと思っていました（開催は延期しました）。

広報1月号に論点整理も載せましたが、本件については幅広く、直接皆さんと議論する機会を作りたいと思っています。

水道事業継続にはさまざまな課題がありますが、一番の課題は専門人材の確保であり、こればかりは本町だけでは解決できません。

市町の水道事業を統合すれば、組織も大きくなり、人材確保も容易になります。また、経営基盤も

安定すると思いますが、実は、私が見込んでいた財政負担の軽減には思ったほど効果がない（もちろん多少はあります）ことも明らかになってきました。

また統合すれば、本町独自の取り組みは進めにくくなるのですが、その場合に心配するのは、本町と広島市との個別連携が出来なくなることへの不安です。

同じ川の上流と下流に位置する自治体として、水源涵養<sup>かんよう</sup>などの分野で、今後はもっと連携を図るべきではないかと思うのですが、その取り組みが本町の判断でできなくなるのを心配しています。

こうした懸念も踏まえて、現在、本町単独で水道事業を行う場合、専門職員を関係機関から派遣いただくという選択肢も検討を進めています。

統合すれば経営は安定するものの独自事業は難しくなります。それは例えて言えば会社員になるのか、自営業を続けるのかという判

断に近い気もしますし、観点を変えると水道事業がルーチンワークなのか、それともさまざまな工夫の余地がある企画事業なのか、どちらで捉えるかで判断が分かれるように感じています。

ただ、いずれにしても水道料金の見直しは不可避であることから、なおさら皆さんとの議論が必要だと思っています。

